PRESS RELEASE (2014/10/31)

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY
北海道大学総務企画部広報課
〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目
TEL 011-706-2610　FAX 011-706-2092
E-mail: kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
URL: http://www.hokudai.ac.jp

北海道大学　サステナビリティ・ウィーク 2014 国際シンポジウム「環境と健康と科学コミュニケーション」の開催について（お知らせ）

開催概要：北海道大学　サステナビリティ・ウィーク 2014

サステナビリティ・ウィークは，「持続可能な社会」の実現に寄与する研究と教育を推進させるために北海道大学が主催する事業です。環境健康科学研究教育センターでは，近年の環境変化が人々，特に子どもの健康に与える影響を題材に，科学コミュニケーションにおける課題についての講演とパネルディスカッションを行う国際シンポジウムを開催します。

開催趣旨：「科学コミュニケーション」とは，科学をめぐって研究者や一般の方々を含む，さまざまな立場の人が対話することです。持続可能な社会にむけた，環境と健康に関する問題や教育と，科学技術コミュニケーションにおける課題について，諸外国の事例も交えて紹介し，皆様の知識を深め，討論の場とします。

日程：2014 年 11 月 17 日（月）開始時刻 13：30/終了時刻 17：00
場所：北海道大学学術交流会館　小講堂（札幌市北区北 8 条西 5 丁目）札幌駅北口より徒歩 7 分
主催：北海道大学 環境健康科学研究教育センター
参加対象・募集人数：一般市民の皆様，学生，研究者など
参加費：無料
言語：日本語及び英語（同時通訳あり）

北海道大学
サステナビリティ・ウィーク
2014

プログラム：講演及びパネルデイスカッション

1. 「科学コミュニケーションの話を始める前に～これだけは押さえておきたい三つの視座～」
   三上直之（北海道大学高等教育推進機構・環境健康科学研究教育センター兼務）
2. 「子ども・社会がより健康になるための，韓国におけるリスクコミュニケーション戦略」
   Jonghan Leem（Department of Occupational & Environmental Medicine, Inha University Hospital, Korea）
3. 「北海道に住む人々のよりよい生活環境を目指して～北海道スタディの成果から～」
   伊藤佐智子（北海道大学環境健康科学研究教育センター）

4.「科学コミュニケ―ションの技術：子宮頸癌ワクチンの受容が，英国・豪州・日本で異なるのは何故か」
Sharon J. B. Hanley（北海道大学大学院医学研究科・環境健康科学研究教育センター兼務）
5.「受け手からみた健康研究と成果発信～市民やジャーナリズムの視点から」
大島寿美子（北星学園大学文学部　心理・応用コミュニケーション学科）

申し込み期間・方法：

① 氏名(フリガナ)　②連絡先電話番号を明記の上，件名に「サステナビリティ・ウィーク 2014 講演申し込み」とご記入の上，以下宛に，TEL，FAX，またはメールにて 11 月 13 日(木)までにお申し込みください。なお，当日参加も会場にて受け付けます。

TEL：011-706-4746　FAX：011-706-4725　E-mail：info@cehs.hokudai.ac.jp

北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2014　ホームページ

http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/

お問い合わせ先

所属・職・氏名：北海道大学環境健康科学研究教育センター　担当　荒木，高橋
TEL：011-706-4746　FAX：011-706-4725　E-mail：info@cehs.hokudai.ac.jp
URL: http://www.cehs.hokudai.ac.jp/

北海道大学　環境健康科学研究教育センター主催

サステナビリティウィーク 2014

国際シンポジウム

環境と健康と科学コミュニケーション

2014年11月17日(月)

13:30〜17:00(13:00開場)

北海道大学 学術交流会館 小講堂

参加費無料

■ 司会

山内 太郎（北海道大学大学院 保健科学研究院・環境健康科学研究教育センター兼務）

田中 俊逸（北海道大学大学院 地球環境科学研究院・環境健康科学研究教育センター兼務）

■ 講演およびパネルディスカッション（日英同時通訳）

1. 「科学コミュニケーションの話を始める前に〜これだけは押さえておきたい三つの視座〜」
   三上 直之（北海道大学 高等教育推進機構・環境健康科学研究教育センター兼務）
2. 「子ども・社会がより健康になるための、韓国におけるリスクコミュニケーション戦略」
   Jonghan Leem (Department of Occupational & Environmental Medicine, Inha University Hospital, Korea)
3. 「北海道に住む人々のよりよい生活環境を目指して〜北海道スタディの成果から〜」
   伊藤 佐智子（北海道大学 環境健康科学研究教育センター）
4. 「科学コミュニケーションの技術：子宮頸癌ワクチンの受容が、英国・豪州・日本で異なるのは何故か」
   Sharon J. B. Hanley（北海道大学大学院 医学研究科・環境健康科学研究教育センター兼務）
5. 「受け手からみた健康研究と成果発信〜市民やジャーナリズムの視点から」
   大島 寿美子（北星学園大学文学部 心理・応用コミュニケーション学科）

内容

科学コミュニケーションとは、科学をめぐって研究者や一般の方々を含むさまざまな立場の人が対話することです。

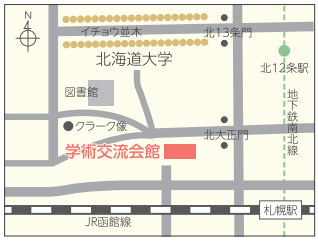
近年の環境変化が人々、特に子どもの健康に与える影響を題材とした講演を行います。持続可能な社会にむけた、教育や科学コミュニケーションにおける課題について、諸外国の事例も交えてみなさまの知識を深め、ディスカッションを実施します。

■ 申し込み・問い合わせ

北海道大学 環境健康科学研究教育センター
TEL 011-706-4746　FAX 011-706-4725
E-mail　info@cehs.hokudai.ac.jp
URL　http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/
担当：荒木・高橋

申し込みはTEL・FAX・E-mail又は、上記URLの「参加申し込み」まで。
当日参加も受け付けます。

■ 会　場



主催　北海道大学　環境健康科学研究教育センター
共催　北海道大学大学院　保健科学研究院・医学研究科・地球環境科学研究院
後援　北海道・北海道教育委員会・札幌市・札幌市教育委員会・環境省北海道地方事務局

駐車場はありませんので、公共交通施設をご利用ください。WARM BIZ実施中！暖かい服装でおこしください。『グリーンMICE推進奨励賞』受賞！ 環境に優しい運営を心掛けています。

Sustainability Weeks 2014

Center for Environmental and Health Sciences(CEHS)
International Symposium

Environment, Health and Science Communication

Date: Monday, November17, 2014
13:30-17:00
Venue: Hokkaido University Conference Hall

Admission Free

Contents:

Science communication means that researchers and people from various backgrounds, including the general public, enter into discussion over science.

This event will feature discussions on challenges facing effective communication in these fields based on the theme of how environmental change affects health. Related examples from other countries will be featured.

■ Chair persons

Taro Yamauchi
Faculty of Health Sciences & Center for Environmental and Health Sciences, Hokkaido University

Shunitz Tanaka
Faculty of Environmental Earth Science & Center for Environmental and Health Sciences, Hokkaido University

■ Presentations & Panel Discussion (English / Japanese Translation)

1. **"Brief Introduction to Science Communication:Three Essential Viewpoints in Discussing it"**
   Naoyuki Mikami, Institute for the Advancement of Higher Education & Center for Environmental and Health Sciences, Hokkaido University
2. **"The risk communication strategies to make children and community more healthy in Korea"**
   Jonghan Leem, Department of Occupational & Environmental Medicine, Inha University Hospital, Korea
3. **"Aiming to improve the everyday environment of Hokkaido citizens- Utilizing the results of the Hokkaido Study"**
   Sachiko Ito, Center for Environmental and Health Sciences, Hokkaido University
4. **"The Science of Communicating about Science: Why Acceptance of the HPV Vaccine differs in the UK, Australia and Japan"**
   Sharon J. B. Hanley, Graduate School of Medicine & Center for Environmental and Health Sciences, Hokkaido University
5. **"How the results of healthcare research are communicated to the public~ From the perspective of citizens and journalists"**
   Sumiko Oshima, Department of Psychology and Applied Communication, School of Humanities, Hokusei Gakuen University

■ Contact

Center for Environmental and Health Sciences
TEL 011-706-4746 FAX 011-706-4725
E-mail info@cehs.hokudai.ac.jp PIC: Araki, Takahashi
URL http://www.sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/

Organizer：Center for Environmental and Health Sciences (CEHS), Hokkaido University
Co-host：Graduate School of Medicine, Faculty of Health Sciences, Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University
Partners：Hokkaido Government, Board of Education(Hokkaido Government) ,City of Sapporo, Board of Education (Sapporo city) , Ministry of the Environment Government of Japan